

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ほとんどの項目において、目標値、区の平均、全国平均値を上回り、特に、「聞くこと」の正答率は84%以上という、目標値を10%以上も上回る結果となっており、英語専科ALTを活用した授業展開の効果が感じられる。一昨年度からの改善ポイントとして重点を置いてきた「書くこと」も目標値、区の平均、全国平均ともに上回り、授業改善の効果が感じられる。

(2) 課題

- ・解答形式が記述問題については、区の平均は上回ったものの、目標値には達しなかった。これらは、自分の言いたいことを絵から見つけ、そこにある例文を正確に書き写すことが求められる問題である。そこで、今後は、アルファベットのディクテーションだけでなく、言葉としてまとまった文の書き写しにも時間を取っていくことが必要と考えられる。「読むこと」の領域も目標値に達していないが、こちらは回答形式が理解できず、無回答だったと思われる児童の数が影響していると考えられ、アルファベットの読み自体が分からなかったかどうかは不明である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

- ・6年次のみの実施のため、記載なし。

(2) 分析（観点別）

① 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値、区の平均、全国平均を全て上回り、正しい知識・理解が身に付いている。 ・特に身近で簡単な語句の聞き取りはよくできている。	・目標値、区の平均、全国平均を全て上回り、正しい知識・理解が身に付いている。 ・聞いて理解する問題はよくできる。 ・多くの絵から自分に合う英文を選んで書き写す問題の正答率が低い。	・目標値、区の平均、全国平均を全て上回っており、外国語の学習への意欲、関心の高さが感じられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌やチャンツ、ゲームなどを通して、外国語の音声やリズムに慣れ親しむ活動は維持しつつ、<u>文字も併せて提示し、文字の形に見慣れる機会を多くする。</u> ・ローマ字を中心に、アルファベットの大文字小文字を正しく書けるよう、<u>毎時間、少しずつ書き写したり、なぞったりする時間を設定する。</u>	・<u>児童にとって身近で具体的な場面設定</u>をし、相手意識と目的意識をもったコミュニケーションを図れるようにする。	・<u>聞く活動を十分に確保</u>したゲームなどを通し、児童の英語への抵抗感をなくし、自信をもって学習活動に取り組めるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・コミュニケーションの中で活用できる基礎的な語彙を定着させ、2つ以上の内容含む聞き取りを、それぞれが正しく聞き取れるような方法を工夫する。 ・<u>文字や単語を四線上に書くことと合わせて、文単位で語順も意識して書き写す練習</u>を重ねる。	・自分たちのことや身近なことについて、<u>例文を参考に書き写す活動を多く確保</u>する。 ・必然性のある活動や場面設定をし、目的、場面、状況を考えたコミュニケーションを設定する。	・<u>音声を中心に慣れ親しみ</u>、外国語を通じて自己表現したり他者のことを理解しようとする態度を養う。 ・<u>ペア活動や発表の時間を取り入れ</u>、他者と伝え合うことの楽しさを実感できるようにする。

